

平成27年1月15日

報 告 書

那須塩原市議会議長 中村 芳隆 様

議会報告会 第2班 班 長 高久 好一
記録者 藤村 由美子
齊藤 誠之
人見 菊一

下記のとおり報告会を開催いたしましたので、報告します。

記

1. 日 時 平成26年11月17日(月) 午後6時30分～8時30分
2. 会 場 西那須野公民館
3. 担当議員と役割
 - 【担当議員】9名
 - 高久 好一 (班長)
 - 玉野 宏 (副班長・放射能対策検討特別委員会報告)
 - 櫻田 貴久 (司会者)
 - 眞壁 俊郎 (定例議会報告)
 - 吉成 伸一 (議会活性化検討特別委員会報告)
 - 若松 東征 (庁舎建設検討特別委員会報告)
 - 藤村 由美子(記録)
 - 齊藤 誠之 (記録)
 - 人見 菊一 (記録)
 - 【応援議員】3名
 - 磯飛 清、鈴木 伸彦、金子 哲也
4. 参加者 市民27名(男性26名、女性1名)

5. 主な意見・要望

議会報告

<定例会報告>

・質問・意見・要望なし

<議会活性化検討特別委員会報告>

・質問・意見・要望なし

<放射能対策検討特別委員会報告>

Q: 国からの復興予算のほうで15億6000万が交付されることになったことで、除染したけれども、基準以上の方に対して何らかの対策をすべきではないか。

A: 放射能特別委員会としてご要望としてお聞きして、放射能特別委員会で改めて回答を出すということで、貴重なご意見として賜ります

<庁舎建設検討特別委員会報告>

Q: 新庁舎が新聞の最初に載っていたときでは73億円位という話であって、それだけのお金をかけて新庁舎をつくる必要があるのか？

A: ただいまの新庁舎の必要性ということではありますが、新庁舎に関しましては現在の本庁舎が手狭ということも1つあります。

合併しましたので、当然職員の数もあり、本庁方式に変えたことによって、かなり手狭になったことが1つ言えます。それから、合併時にもありましたが、新市建設計画の中で合併時の合併特例債を利用して新庁舎をつくりますという項目も記されております。

それらを勘案し、基金を積み立てながらここまで進めてきたわけですが、基金積み立てに関しましては3.11がありましたので、先ほど放射能対策検討特別委員会の委員長の報告がありましたように、一時基金に関しては取り崩しを行いました。その後改めて基金を積み上げてきて、市民懇談会を立ち上げて、今、新庁舎建設に向けた議論を進めています。

問題点等々の洗い上げをしながら進めているのが状況であります。それらの状況を伺いながら、当議会においても庁舎のあり方、どういった庁舎がいいのか、そういったこと今後議論を進めていくという段階です。

Q: 本庁方式というのはメリットがあるんですか。西那須野にも支所があって、塩原にもあって、それで黒磯に今まで通りあって、その3つの庁舎を有機的に結合するということは今のIT技術があればできるんじゃないですか。

そういうことは無理なんですか。やっぱり1か所に集まらないと仕事ができないんですか。

A：考え方は当然いろいろあると思います。当初総合支所方式でやった中で、やはりなかなかロスも多いと。やはり本庁方式で機能を集めたほうがやりやすいということで改正をした流れもあるわけです。それらを踏まえて今回は形としてはやはりこれまでと同じ形になる方向で今進めているというのが現在の状況です。

意見交換（第1グループ）

<テーマ～子育てで地域づくり～>

<子育て>

意見：市の子育てサロンが21か所ほどあるが、そういった場所で、実際に来られている保護者（母親・父親）に意見や悩みとか課題を聞いてみたらどうか。

A：意見として受け止めます。

<子ども未来基金>

意見：7億円の基金の説明について。

A：この基金は建物に関して、ハード面で整備するための基金です。待機児童対策として幼稚園・保育園を整備したり、また学童保育とか放課後児童クラブ（西那須野4か所、黒磯1か所）の狭さを解消するために整備・建設したりして、定住促進、特に若い人に住んでもらいたいというのが一番の目標であり、若い人に手厚くという部分で今回の基金を設けた。

意見：今後保育園は民間委託を中心に進めるのか、今までどおり直営で保育園を運営するのか、どちらに重きを置くのか。

A：即答なし

意見：待機児童数は何名か？

A：下野新聞報道では157人、国の言う待機児童は37人。これを解消するために那須塩原市は子ども基金をつくる

意見：女性の意見をもっと聞いたらどうか。少子化で、女性の協力がなければ、子どもが増えていかない。

意見：待機児童が150人前後いるという中で、地域的には分析をされているか？

A：大体平成26年度で旧黒磯地区で210人位、旧西那須野地区で16人で、

その後27年で今度は旧西那須野地区で140人増やして行くという計画です。

意見：子ども未来部をつくるのに、保育園の民間譲渡はおかしいのでは。

A：しっかりと行政でも管理して行ってくれと言っていきます。

要望：五軒町地区の育成会が成り立たなくなってしまうと、統合しなくては行けないという話が出ている。5つを3つに絞るかたちです。育成会を子どもたちがよりどころにするようにして行かなければならない、その活動を学校任せにしている。いわゆる行政が何もしていない。行政、自治会がしっかりと取り組み、本当に地域で子どもを育てるということをしてもらいたいと思います。

意見：今子育ての話をしているが、子どもの意見は吸い上げていないと思う。大人の意見を押しつけているのでは。子どもの意見を聞いてほしい

意見：待機児童について、那須塩原市全体の地域で待機児童がいて保育園を広げて解消できるのか。それとも地域別例えば西那須野地区のみ保育園を広げれば待機児童が解消できるのか。

A：保育園120%、幼稚園65%で、全国的にこういった傾向である。

意見：子育てサロンもほとんど平日のみ、月曜日～金曜日まで仕事している方は、子育てサロンにも行けないということなので、市の方もバックアップをいただいて、土日、休日も参加できるシステムをつくっていただきたい。

A：意見として預かります。

意見：昔はスポーツ少年団にしても、部活動にしても親が来るなんてことはまずなかったが、現状は親がやらなければならないことがある。毎週土日と一緒に رفتりして、自分としてはそれも良かったと思うのだが、常に親も同行していることが、子どもにとってはいいことだと持ったのだが。子どもの自立的な活動を促すためにももっと自分たちで考えて活動することも必要ではないか。

<西那須野地区について>

意見：ごみの回収の時間が遅くなった。今までは午前中には回収されたのだが、今は2時、3時ごろになっている。

意見：市合併10周年記念で一体何をやるのかが見えない。というのは、10

年たっても地域の一体感は生まれてきていない、この件を議会で（議会活性化以上に）しっかりと対応して行ってもらいたい。

意見：地域計画道路、水源通りについて、西那須野支所の裏から国道400号までつなげる道路について、都市計画（案）から消えていないか確認してもらいたい。

要望：中央通りの長寿センターに抜ける裏道の道路の拡張を、早く取り掛かってほしい。入り口付近を一部広げてしまった為、交通量が増えてしまった。

<その他について>

意見：放置車両に対して撤去を促すような、周知のシステムを作ってもらいたい。

意見：高齢化社会問題で、将来はごみも出せない、電球ですら交換できない方が増えてくる。そういった対策も議会で取り組んでほしい。

例えば、以前の震災のような事態が起こった時、日中一人きりになる方がいると、どうやって助けていくのか等の対策をお願いしたい。

意見：誰がどこに住んでいるのか等の連絡をとれるようなものを作るべき、いざという時に警察、消防等に連絡が取れるようなものが必要。

意見：一番身近な存在として、自治会が一番わかっている。だから自治会未加入について（広報、防災も含めて）行政は積極的に加入促進をしてほしい。実際にはしていないのでは。とにかく行政は何かしらの手を打つべきでは。

意見：自治会についても各地域でシステムが違う、このまま進むといつになっても一体感はないと思う。行政自らがわけて、会議等をしていること自体がおかしい。

意見：空き家対策について把握しているか。是非早急に対策してほしい。

A：前回の議会にて、全会一致で空き家対策が決まっている。

意見交換（第2グループ）

<テーマ～子育てで地域づくり～>

<学校給食>

意見：調理員の人数を増やして、もうちょっとまともなものを子どもに与えた方がいい。

意見：縦割り行政の弊害があるのではないか

意見：米粉パンは古米処理

意見：子どもには無肥料・無農薬のものを食べさせると体温が上がる。

意見：地域で安全な食材を提供してはどうか

意見：栄養士のレベルを上げるべき。管理栄養士が必要。

Q：給食の素材について、どこから仕入れているか議会は把握しているか

A：黒磯公設市場で安定的に野菜を仕入れている。あとは学校給食会と協力している。

<スポーツ少年団>

意見：那須塩原市の子どもたちは全国で優秀な成績を上げているし、市の宣伝にもなるので、スポーツ少年団への遠征費、報奨金などの助成を一度見直していただきたい。

A：那須塩原市は独自でやっており、他市と比べて予算は多い。

<子ども未来部>

Q：子ども未来部について説明してほしい。

A：課を部へとグレードアップし、指示系統を一本化する。市は、子育て支援に力を入れて、定住促進を進めたいと考えている。

<定住促進>

意見：小中学校単位での人口・世帯調査をしてはどうか。

意見：定住促進を進めるならば、教育と仕事があることが必要。

<自由テーマ>

<定住促進>

意見：定住促進には、教育・仕事プラス地域の安全が不可欠。防犯カメラと防犯灯を設置したほうがいい。市庁舎を作る予算があれば、全部の学校に防犯カメラをつけられるのではないか。駐車場がないというならば、職員はゆ〜バスで通勤できるようにすべき。

<高齢者福祉>

意見：第6期介護保険事業計画のパブリックコメントが募集されているので、ぜひ多くの市民も意見を出してほしい。そして、議会に案が提案されたら、議会の中で十分な審議をしていただきたい。

A：しっかり審査させていただく。

意見：西那須野地区の地域包括支援センターの圏域を見直してほしい。できれば、小学校単位にしてほしい。

意見：大人は自己責任。福祉、福祉とばらまかないで、お金は子どもに使うべき。

<地域の関わり>

意見：子どもの見守りで、防犯カメラなどのハードの部分も大切だが、世代間の縦の付き合いで子どもたちを見守れる環境が良い。スクールガードの人たちがいてくれて、声をかけてくれるのは大変ありがたい。

意見：高齢者はリタイヤしてもまだまだ元気なので、自分たちのやれることで地域にぜひ関わってほしい。

意見：若い人たちから「ああしてほしい」というのが出てくると、グループで応援する。

<生活保護>

意見：市内で、働ける世代で生活保護の費用をもらっている人はどのくらいいるのか。

A：実数はわからないが、必ず聞き取り調査をして、必要な場合はハローワークに行ってもらっている。

6. 報告会の運営について

○テーマの設定について

- ・参加者との間で共通認識が持てた。
- ・再度参加するきっかけが作れた。
- ・来てほしい人に来てもらえなかった。→テーマに沿った時間設定が必要
- ・参加を呼びかける仕掛けづくり

○グループ分けによる意見交換について

- ・発言する機会が作ることができ、意見もよく出た。
- ・参加者が言いたいことが言える場となった。

○次回に向けて

- ・各班2回担当し、6会場の開催に戻す（集めた資料がもったいない）。
- ・スクリーンの活用を増やす（定例会報告は最初だけでも使用しては）。
- ・各議員の議案に対する可否は、参加者が聞きたいところであり、ルールを作って意見交換の場として応えるための努力が必要（市の対応ではなく、議会の対応をわかりやすく伝える努力）。